

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3373500291		
法人名	社会福祉法人 長寿会		
事業所名	グループホーム いずみ山荘		
所在地	岡山県苫田郡鏡野町公保田73-2		
自己評価作成日	平成21年11月4日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 高齢者・障害者生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	平成21年11月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

介護計画に基づき日常生活上の世話及び機能回復訓練を行う。そして利用者が有する能力に応じ自立した日常生活を営むことが出来るよう目指す。又、地域との結びつきを重視し福祉サービスを提供するものとの密接な連携を図り総合的なサービスの提供に努める。
 (今年度の事業計画) 1、御利用者の皆様の個性と個人の尊厳が保たれるケアプランを作成し、ゆったりと自由に過ごしていただけるホーム作りを行います。 1、認知症高齢者介護に対する専門性の向上を目指し、自己研鑽に努め、地域密着型介護サービスの核となり得る質の高いサービスの提供に努めます。1、御家族の皆様と連携を取り合い、御利用者の皆様が心身の状態を穏やかに保ち安心して過ごして頂ける様に努めます。又、御家族の御希望や御相談に積極的に取り組みます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

いずみやま荘のその地域での存在意義を管理者はじめ職員の方々が一貫と認識された運営をされている。職員の方が入居者の残存機能の把握を日々観察されていることが窺えその把握した内容を支援内容に活かされている。行事も時節毎の写真で外出先の雰囲気表現されており回想・遡及しやすい内容となっている。外出支援の随所に工夫と職員の想いが反映されてる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員勉強会にて施設理念や処遇理念等の周知を図る。及びケアへの反映の見直しを行っている。	入居者の方が試みていることを急かすような声かけを絶対にしない意識が伝わってきました。穏やかにゆるやかに助け合って生活するをモットーに利用者の方と関わられていることが窺えました。	達成できる目標を決めて取組んでいきたいとお聞かせ頂きました。その場面の状況に合わせて対応されることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園との交流、地区公民館へ文化祭の作品出品及び見学参加、地区の祭り、地区の清掃への参加等積極的に行事に参加し交流に努めている。	立地条件から近隣との交流ということが少ないとのことでしたが、日常や田んぼ作りなど時節の行事の機会をきっかけにするなどして努めて地域の行事に参加されています。	地域から求められている事柄等を運営推進会議を活用され、あらゆる立場の方々のご意見を頂くことで入居者の方と一緒に応えられるものが生み出されることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の愛育委員や民生委員の方々へ認知症を理解してもらう為に話し合いや勉強会を実施。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業内容や現状報告を行い参加者からの質問や意見、要望等も積極的に受け入れている。自主評価の結果も報告しサービスの向上へ活かしている。	ご家族・区長・町役場・地域包括センター・福祉事務所の方の参加が得られており二ヶ月に1回の頻度で開催されています。	忘年会などの行事と合わせた運営推進会議を実施してゆきたいとお聞かせ頂きました。実施に期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	常に連携をとり情報の共有が出来る様に努めている。又、随時相談に応じてもらったりアドバイスを頂く等している。来荘時は施設内を見学される。	役場との強い連携が取れていることが窺えました。研修なども定期的に実施されており職員のレベルアップにも力を注がれています。	あらゆる方々から介護面や運営面で頼りにされていることから、まだ参加に至っていない対象者へのアプローチを期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束廃止委員会を発足し話し合いや勉強会を実施し職員の共有認識を図っている。 ・見守りの強化や気分転換を行うことで車椅子のベルト着用をせずに過ごして頂く様に努めている。	入居当初、一時的な拘束状態にある方がいらっしゃったようですが、入居者の行動観察から落ち着いて過ごして頂ける方法を見つけていくことで拘束解除に繋げておられる事例がありました。	精神安定剤を用いた対応をしなくても良いように日中の関わり方を研究されていました。その姿勢の継続を期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を実施し高齢者虐待防止に関する理解を深めたり不適切なケアについて話し合う等して決して行わない事の周知徹底を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会にて成年後見制度について学んだり、勉強会を行い職員の理解を深める様にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約時に重要事項説明をきちっと行っている。又、重度化や看取り、医療連携体制についても詳しく説明し同意を得ている。 ・随時相談に応じるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	用紙を同封し意見等を気軽に書いてもらう様に努めている。又、訪問時には何でも言ってもらえる様に普段から留意している。要望や意見があれば速やかに対処し結果を必ず報告する。	入居者の各担当職員がご家族へ手紙を郵送したりアンケート用紙を同封するなどして、あらゆる方法で情報交換できるような工夫がみられました。	外出や家族との外泊を希望される入居者がいらっしゃれば可能な限りご家族の協力を得ながら支援して頂くことを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	部署内会議、連絡会、職員会議、全体会議等職員の意見や要望を聞く機会が多くあり何でも言える場がある。又、年度始めには全職員にアンケートを実施し職員の声を聞き運営に反映している。	年度初めに職員向けのアンケートを実施されています。今ではケアの仕方などいろいろな意見が出てくるようになってきているようです。	出た意見を否定されることなく何でも言い合える場を設けられていますので、今後も話し合いを以って個別ケアの方針を決めていかれることを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・職員の資格習得への支援を行い向上心を持って働ける環境作りをしている。 ・就業規則が守られている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・新人職員、中堅職員等段階に応じた研修の受講を行っている。研修参加者は職員会議にて報告する。 ・外部より講師を招いての勉強会の実施		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・町主催の同業者研修会が開かれ研修や交流が図れる様になっている。 ・町内のGHとの交流があり見学や情報交換等常に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・本人の思いや不安を聞き気持ちを受け止めたりコミュニケーションを図る様に努めている又、安心して過ごして頂く様に理解し信頼してもらえるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族にとって困っている事、不安な事、要望は何かなど聞き、どの様な対応が出来るか話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時点で本人の状況や家族の要望を聞き、今必要としているサービスにつなげる様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の暮らしの中で喜びや哀しみ等色々な思いを共感しながら穏やかに楽しく過ごして頂ける様にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員より毎月ご家族へ手紙を出す事により施設での生活の様子や気づいた事などの情報をきめ細かく伝えており、ご家族、職員の協力関係を築く様に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・住み慣れた場所へ出掛けて行ったり、知人や近所の人々が来荘されている。又、電話があったり手紙を書かれている人もある。 ・昔からの行きつけの美容室へ行かれている人も三人ある。	ふるさと訪問ドライブを2回/年実施されたり、入居者から要望をお聞きして実施できる方法を構築されています。散髪もなじみの所に行って頂くなど今までの生活を極力踏襲できるよう工夫がみられました。	今までの生活を継続できる入居者の安心に繋がる要素の維持と地域八十八ヶ所めぐりなどの斬新なアイデアを出し続けられることを期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・食事時間やレク時は職員が調整役となって皆さんが多くのお話が出来たりコミュニケーションが図れる様に働きかけている。 ・利用者間の関係や情報を共有して見守り、配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・同じ施設内にある特養へ移られた場合これまでの支援状況や注意が必要なことについての情報提供、情報交換を行いきめ細かい連携に努めている。 ・顔馴染みの職員や利用者が訪問している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日々の生活の中で利用者の方と会話したり、色々な場面での表情等から把握するように努めている。 ・意思疎通が難しい方にはご家族から情報を得ています。	ご家族への聞き取りに対する職員の方の高い意識が窺えました。その聞き取り内容を日常の支援に反映できるような情報伝達方法まで示されていました。	入居者の行動観察をしっかりと行っておられます。常にモニタリングの意識した取り組みの継続を期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の生活の中での会話や家族からこれまでの経緯を聞くことにより本人への理解が深まるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別介護経過記録に日々の過ごし方や状態を記録する事により把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行い、本人やご家族が望んでいる事を踏まえ、その人らしく生活して頂ける介護計画を作成している。	管理者が介護支援専門員との兼務ということもありフロアに立ち介護スタッフと一緒にケアに当たれるシステムになっている。	ユニットごとの管理者の夜勤が重なっていることがある。管理者しかできない業務もあると思われるので、どちらかの管理者が日中勤務できるようなシフト作成に工夫できることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別介護経過記録に日常生活全般を記録したり、個別サービス実施表の記録を行う等して職員間で情報を共有している。それらを基に介護計画の評価、見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の都合により通院に付き添えない場合には職員が対応するなどしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	押し花、書道、生け花の先生に来て頂いて指導してもらっています。又、地区公民館の文化祭に色々な作品を出品するなどして交流している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	昔からのかかりつけ医があれば継続して受診できる様にしています。又、協力医への通院介助を行っており普段の様子や変化をきめ細かく伝えていきます。	認知症に対する理解と協力が得られることで入居者の健康状態の把握等に生かされています。初診時は、ご家族との情報共有を目的に通院対応を勧めています。	今後も入居時には、重要事項説明書に記載されている内容を十分ご家族に同意を頂けるような働きかけを期待します。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行っています。変化があれば看護師や医師に連絡し適切な医療への受診へつなげています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供している。又、遠方におられる家族に代り衣類の洗濯や病院への見舞い、連絡とりなどを職員が行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携をとり安心して最期を迎えられるよう取り組んでいます。	記録の内容からターミナル期のケアに対して職員総力を挙げて取組まれていることが読み取れました。食事や入浴にもターミナル期を勘案した内容に変更されるなどのケアがなされています。	看護師をはじめとした医療機関との連携内容の確認もされており健康管理にも配慮されています。入居者やご家族の要望を踏まえた支援の継続を期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応についてマニュアルを整備し周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年2回、4月と9月には利用者と共に避難訓練を行っている。 ・年1回特養と合同の避難訓練があり消火器を取り扱う訓練をしている。	消防署や併設施設との連携を取りながら、火災時のみならず地震や水害も想定した訓練も実施されていました。新人職員を主とした訓練の実施も窺えました。	夜間想定で夜勤職員1名での避難訓練実施に期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・本人の気落ちを大切に自己決定しやすい言葉掛けを行いさりげないケアを心がけている。・言葉の内容や語調に気をつけ職員間で気になる言葉づかいがあった時には改善するようにしている。	バックグラウンドアセスメントを踏まえ個人のやりたいこと聴くことや2択による自己決定の場面を取り入れている。	入浴の順番のトラブルが以前はあったが今現在は入浴毎、くじ引きで実施されている。入居者自身で決めたことの結果ということで、トラブルは無くなった。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・一緒に買い物に行き食べたい物を選んでもらう。・行事へ参加する否は本人が決めている。・表情や反応を読み取るように努めて対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・基本的な流れはあるが一人ひとりの体調や希望を考慮し自分の思うように過ごして頂いている。午後からの入浴時間が遅い方を希望される方は順番を考慮し対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・衣類の選択はその方の好みに沿うように配慮している。・行きつけの理美容院で希望のカットや毛染めができるよう支援している。・外出時は外出着の配慮を行う。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・ホームの畑で採れた野菜を使用し一緒に調理盛り付けを行う。・自分のペースで食事が出来る様な雰囲気作りを心がけている。・旬の食材使用や行事食を取り入れた献立をたて季節感に配慮している。	収穫毎に声を上げて喜ばれている姿があると のことできゅうりやイモ類の収穫は毎年行っている。	献立係など職員も勉強しながら取組んでおられるので是非立地を生かした内容を構築され継続されることを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・一日1500kcal前後の献立を作成し量は個々に対応する。・食事、水分摂取量の把握を行い対応。・糖尿病の方は医師の指示に従い提供。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず声かけを行い自分で出来る方は見守りを、出来ない方は介助し、一人ひとりの力に応じた歯磨きの援助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・チェック表を使用し一人ひとりの排泄パターンを把握し、尿意のない方も時間を見て誘導を行ないトイレで排泄出来る様に支援している。 ・パット類も個々に合わせて検討している。	食事前のトイレ誘導もスムーズに行えていました。自力で用を足される方が殆どですが、排泄チェックや尿量の把握にも努めておられます。夜間帯は、ポータブルトイレを活用される方が多いようです。	排泄はデリケートな部分を多く含む援助ですので、自己決定と衛生面とのバランスを勘案された受容継続を期待します。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・毎朝食時にヨーグルトかバナナをメニューに入れたり、毎日体操を行う等便秘対策を行っている。 ・毎朝トイレに座る習慣づけを行っている。 ・毎日の引継ぎで排便の確認を行う。薬で対応することもある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・入浴時間が「早い」と言われる方には順番を遅くするなどの対応をしている。 ・入浴希望を確認して毎日入浴したい方は入れる様に支援している。 ・入浴剤を使用したり足浴をしたりリラックス出来る様にしている。	入浴は、入居者から要望もあり日中に支援している。夜間に希望される方はいないとのこと。入居者の方の声に応える姿勢が窺えました。	入浴を業務として捕らえることなく入居者の気持ちを汲む遊び心も大切にされている支援の継続を期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・夜間よく眠れるようになるべく日中は活動に参加して頂き生活リズムを整えるようにしている。 ・体調や疲れ具合に応じ個々に合った休息をとってもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬の明細をファイルし全職員が把握出来る様にしている。 ・薬の変更があった時には必ず引き継ぎを行い状態観察を報告している。 ・服薬時は必ず口に入った確認をし口腔ケア時にも残っていないか再確認する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・家事手伝いや畑作りなど利用者さんの経験や知恵を発揮出来る場面を作り、手伝って頂いた後は感謝の言葉を伝える。 ・外出や外食の機会を多くもっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・外気浴、散歩、買い物、外出等を希望する人は随時対応している。又、積極的にドライブや季節を感じに外出している。 ・地域の季節行事に参加している。	ショッピングセンター等へ買物は毎日行われていました。外食は2回/月実施されています。	外出支援に職員の方々の強い想いが窺えました。転倒や怪我等を想定された人員での支援継続を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる方は小額所持されており、散髪や買い物等に使われている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・希望に応じて家族や友達への電話や手紙のやり取りが出来る様に支援している。 ・年賀状や暑中見舞い等家族への手紙を書いてみる様に声掛けし行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・花や緑を絶やさないようにし季節感のあるホーム作りに努めている。太陽の光が入ったり植物の緑が見える中庭がある。・ソファやテレビの配置を考慮し落ち着けるスペース作りに努めている。・フロアの壁画は利用者さんと一緒に作成している。	玄関を花いっぱい手作り感が漂うウェルカムの雰囲気を感じます。建物もモダンな建物と木材を基調とした建物で特徴ある空間づくりになっています。	壁に入居者の作品を掲示されたり季節の移り変わりがみて取れる工夫がされていますので、継続した支援を期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや廊下に椅子を置き一人で過ごしたり、仲の良い利用者さんとくつろげるスペースがある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・本人の使用されていたタンスや自分で作られた手芸品等を持ち込まれ居室に飾ってある。 ・花を生けたり写真を飾ったりし生活感のある居室作りに努めている。	居室から自然豊かな風景を見ることが出来る環境になっています。内装も入居者の方自身やご家族の意見が反映することができる雰囲気作りにも努められていました。	安心できる居室で過ごされることと居室へ閉じこもることの見極めに配慮されつつ、生活感漂う雰囲気を、ご家族の協力を今以上に頂けることに期待します。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者さんの状態の変化に合わせてその都度話し合い、安全で快適に生活を送って頂ける様に環境整備に努めている。		